

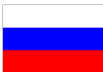
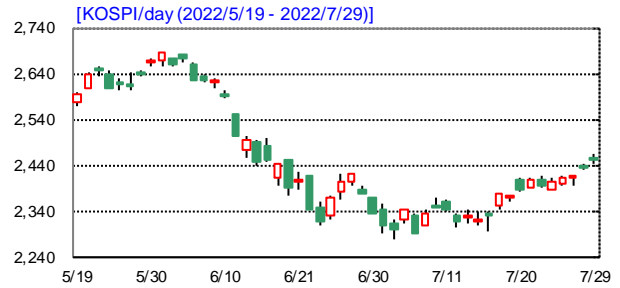


【韓国】 総合指数は週間で2.4%高と続伸、今週は上値が重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.4%高と反発。週明け25日に反発して終値ベースで心理的節目の2400ポイントを回復した後、週末まで5日続伸となった。26日に発表された韓国の2022年4-6月期のGDP成長率が前期比0.7%と市場予想を上回り、買い安心感につながった。新型コロナウイルス感染防止対策の緩和を受けた堅調な消費が、輸出の鈍化を打ち消した格好。米FRBが27日のFOMCで市場予想通りの利上げを決定し、パウエルFRB議長が今後の利上げについてタカ派姿勢を後退させたことも支援材料。29日の終値は2450ポイントを超え、6月16日以来ほぼ1カ月半ぶりの高値となった。今週は上値の重い展開か。利益確定売りが相場の重荷となりそうだ。韓国の7月の貿易統計が8月1日、CPIが2日に発表される。

▼指数チャート

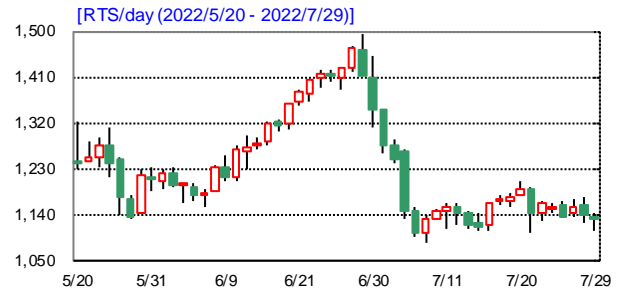


【ロシア】 RTS指数は2.8%安と続落、今週も商品・為替相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS株価指数は2.8%安と反落。資源・エネルギー株が大幅に上昇したものの、ルーブル安が米ドル建て指数の重しとなった。商品先物相場の上昇を受けて資源・エネルギー株が大幅高となったが、追加利下げへの警戒感などを背景にルーブルが対ドルで大きく下げ、米ドル建てで取引されるRTS指数を押し下げた。ルーブル建てのMOEX指数は週間で5.6%高と3週ぶりに大幅反発している。ルーブルは対ドルで前週末の55.62ルーブルから先週末に59.75ルーブルとなり、週間で7.4%安だった。個別では、産金のポリュスが12.0%高、エネルギーのノバテクが11.4%高、スルグトネフテガスが6.8%高、ルクオイルが5.1%高、資源のノリリスク・ニッケルが9.6%高。今週は引き続き商品相場やルーブル相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート

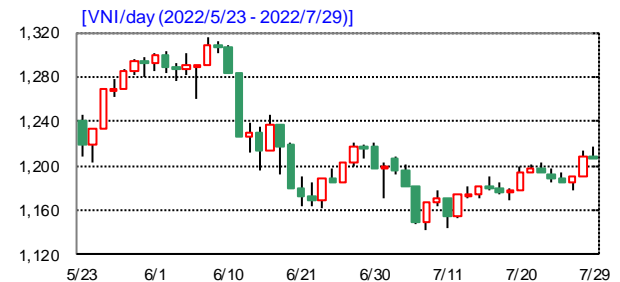


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.0%高と3週続伸、今週はもみ合う展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で1.0%高と3週続伸。金融株の上昇にけん引され、指数は約1カ月ぶりに1200ポイント台を回復した。27日までマイナス圏で推移したが、28日に金融株が軒並み上昇し、指数を押し上げた。27日に前日比0.5%高と4営業日ぶりに反発すると28日に1.4%高と続伸し、終値で6月29日以来の1200ポイント台を回復した。29日は1217ポイントまで上値を伸ばし、1206.33ポイントで引けた。個別銘柄では飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が8.4%高、不動産のビンコム・リテールが7.7%高、金融のサコムバンクが7.4%高、ベトナム投資開発銀行が5.1%高、ベトナムバンクが3.0%高となった一方、PC・携帯電話販売のモバイル・ワールドが5.4%安、複合企業のビンググループが3.8%安だった。今週はもみ合いか。

▼指数チャート

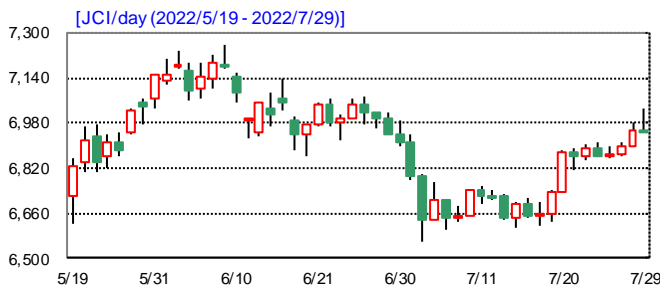


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%高、今週は 5 日に 4-6 月期の GDP 発表

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%高と続伸。7 月月間では 0.6%高。先週はじりじりと上値を広げ、週末には場中に一時、7000 ポイント台に到達した。週初めの 25 日は、前週末の NY ダウが下落した流れを引き継ぎ反落したが、26 日は金融株と資源株が指数上昇をけん引して反発。27 日に続伸すると、28 日は米 FOMC 後に急速な金融引き締めに対する懸念が後退したことが買い材料となり、終値で約 1 カ月ぶりに 6900 ポイント台に乗せた。29 日は 4 日ぶりに小幅反落して取引を終えている。今週は 1 日の 7 月の CPI に続き、5 日には 4-6 月期の GDP が発表される予定。内容次第で上値を試す展開が期待される。

▼指数チャート

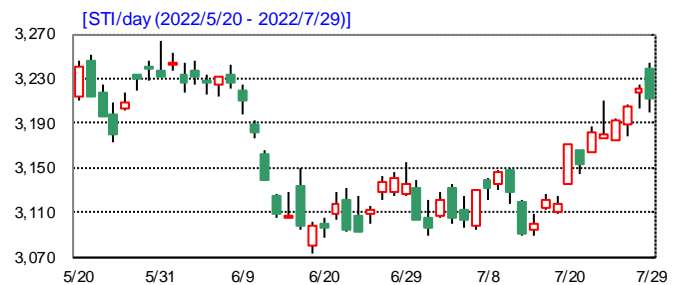


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.9%高、6 月の CPI 上昇率は 08 年 9 月以来の高水準

スレーツタイムズ指数は週間で 0.9%高と続伸。7 月月間では 3.5%高。先週は狭いレンジでの値動きが続いた。週初めの 25 日は、6 月の CPI 上昇率が前年同月比 6.7%と 08 年 9 月以来の高水準となったことが嫌気され、指数は小幅反落。26 日は 6 月の鉱工業生産が市場予想から下振れしたものの影響は軽微で買い戻されると、27 日は終値で約 7 週間ぶりに 3200 ポイント台を回復した。28 日は前日の NY ダウが反発した流れを引き継ぎ 3 日続伸したが、29 日は世界経済の後退懸念が広がった影響で売られ、反落して取引を終えている。今週は 2 日に 7 月の製造業 PMI、5 日に 6 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

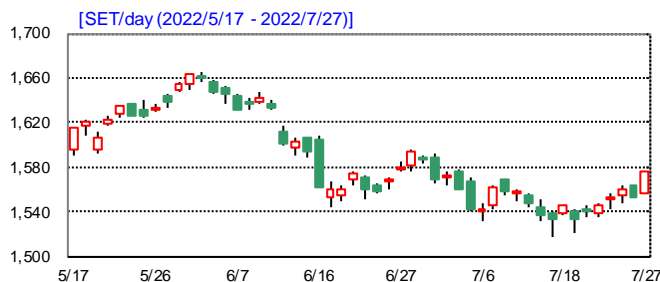


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%高、今週は 5 日に 7 月の CPI 発表

SET 指数は 3 日間の取引で 1.5%高と続伸。7 月月間では 0.5%高。先週は連休直前の上昇が奏功した。週初めの 25 日は、中央銀行が 4-6 月期の経済成長率について 3%を超えるとの見方を示していることが買い材料となり、指数は 4 営業日続伸。26 日は金融株とエネルギー株を中心に売り優勢の展開となり反落したが、27 日は米 FOMC の閉会を目前に控え、利上げ幅が 0.75%にとどまるとの観測が広がったほか、タイの 7 月の輸出額（通関ベース）が市場予想から上振れた効果で、指数は前日比 1.5%高と終値で約 1 カ月ぶりの高値を更新して連休前の取引を終えた。今週は 5 日に 7 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

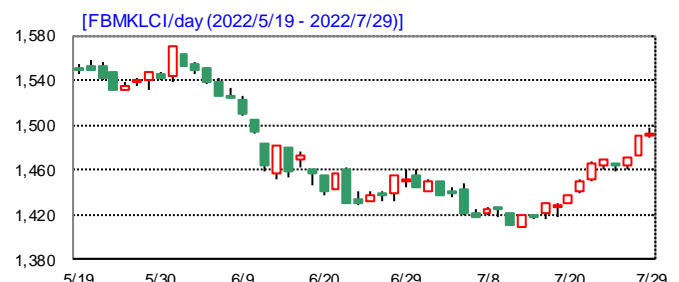


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%高、週末に終値で 7 週間ぶりの高値を更新

クアラルンプール総合指数は週間で 1.8%高と続伸。7 月月間では 3.3%高。先週は国内の重要イベントが少ない中、堅調に推移した。週初めの 25 日は引け際に大型株が買われて 4 営業日続伸した一方、26 日は利益確定売りが出て反落。ただ、27 日に買い戻されると、28 日は外国人投資家の買いが奏功し、前日比 1.4%高と続伸した。29 日は 4-6 月期の米実質国内総生産がマイナス成長となり、景気後退による利上げペース減速への期待が高まった効果で買い優勢となり、指数は終値で 7 週間ぶりの高値を更新して引けている。今週も国内の経済指標の発表が少なく、外部要因が株式相場を左右する展開が続くそう。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。